

自己肯定感と言語

『マダム イン ニューヨーク (English Vinglish)』という映画は、「主婦」であるインド人女性が家庭で子どもに英語単語の発音をばかにされたり、滞在先のニューヨークのカフェでうまく注文できずに、ひどく傷ついてしまう状況をえがき、そこから自己肯定感をとりもどしていく様子をうまく表現している。親戚の結婚式の準備のためにニューヨークですごすなかで、英会話教室にかよう。インドでお菓子をつくって、売ってつくったこずかいをつかって入会した。英語を身につけていながら、それでも自分の言語をおとしめることなく、自分の言語や文化に自信をもったすがたをえがいている。それは、ひとりではできないことではない。自分を肯定してくれる人がいることも必要である。自己肯定感があればこそ、いいたいことがいえる。自己肯定感があればこそ、未来に希望をいだき、目標をたて、そこにすすんでいこうと思うことができる。

人は、自分がおかれた環境をすぐにとびだすことは困難である。条件が人それぞれちがう。はなす言語、からだ、性別に関することなど、それぞれにちがいがあがる。そのなかで、ある人は自分の言語に価値を見いだせず、「言語の乗り換え」を希望する人もいられる。希望したとおりに、実現する人もいれば、うまくいかない人もいられる。うまくバイリンガルになれる人もいれば、子どものころのように母語がはなせなくなる人もいられる。学校での学習につまずく人もいられる。

言語問題に「問い」(課題)を見いだす

そのような状況は、すでにこの社会でおきていることである。重要なのは、そのような言語現象をどのようにとらえ、なにを社会課題とし、どのようなとりくみが必要なのかを考えることである。この社会で観察できる言語現象、言語問題にどのような問いを見いだすのかということだ。多言語主義についてのぶあつ研究書の「序論」で砂野幸稔(すなの・ゆきとし)は、つぎのようにのべている。

忘れてはならないのは、「言語」が問題化する場所とは、「人間」の社会におけるあり方が問題化する場所に他ならないということである。「言語問題」とは、「言語」の問題ではなく、「人間」の問題なのである。そうした意味で、危機言語研究や言語復興研究のように、「言語」を出発点とし、「言語」を到達点とするかのような研究とは、本書の問題意識は大きく異なる。多言語主義あるいは言語多様性を肯定的な価値としてとらえ得るのは、「人間」を実現するという意味ではすでに破綻した単一言語主義の乗り越えの可能性を示唆しているからである。「言語」が救済されるべきなのではなく、「人間」が「言語」に起因する疎外、抑圧、排除から解放されなければならない(すなの2012:29)。

この授業でも、さまざまな言語問題を取りあげ、言語によって人間がどのように抑圧され、排除されているのかを論じてきた。多種多様にわたるテーマ、現象は、それぞれ固有の問題であり、なにをどうすることで「人間の解放」につながるのかを考える必要がある。それぞれ、とても具体的な問いなのであり、すぐには解決のできないような、難解な問いであるといえる。

解決にむけたとりくみは、すでにある

課題を発見することも重要であるが、その課題について、これまでどのようなことがとりくまれてきたのかを確認することも必要である。多くのことは、すでに発見され、論じられている。

とりくむ主体も多様である。国であるとか、地方自治体であるかもしれない。NPOなどの市民団体であるかもしれない。あるいは、国連の条約に書かれているかもしれない。SNSで活発に議論されているかもしれない。研究者によって多くの本や論文が発表されているかもしれない。それぞれに経緯があり、歴史がある。その歴史と現状を把握することも必要である。

単一言語主義がすすめた同化主義のあとに一少数言語の復権

砂野は、多言語主義について3つの歴史的な文脈をあげている。

第一に、「過去修復型—「国民国家」批判」の文脈である。第二に、「主権国家の平等型—グローバル化と英語支配への反動」という文脈である。第三に、「移民社会への対応—グローバル化と移民労働力」という文脈である（同上:12）。過去修復とは、国家政策として単一言語主義が政策としてとられ、地域の少数言語が否定され、同化がすすめられてきたことの反省という文脈である。主権国家の平等とは、各国の言語が平等にあつかわれるようにもとめるうごきのことである。移民社会への対応とは、主流言語がはなせない移住労働者とその家族をどのように社会統合するかということである。この3つには、単一言語主義による同化主義の問題が共通してある。地域の少数言語を否定する、英語以外の言語を否定する、移民が「言語をもちこむ」ことを否定する（「必要なのは労働力だけだ」ということである。

移民の第一世代は「言語の乗り換え」がうまくできなくとも、そのこどもは急速に主流言語を身につける。親の言語をはなせなくなる。その様子は、かつて国内少数言語が否定され、少数言語の使用者がどんどんすくなくなっていく状況と、よくにている。英語ばかりが学習して身につけるべき言語とされている状況は、「言語には優劣がある」というような固定観念を人々に植えつけている。

そのような状況をどのように打破するのかということである。

少数言語の復権のために必要なポイントとして、その言語集団にどれだけ権限（自治権）やメディアがあるかという点がまず第一に重要である。自治政府（自治州）があれば、さまざまな言語政策をうちだすことができる。メディアがあれば、さまざまなかたちで自分たちの言語で情報を発信することができる。これらはトップダウンで言語の復権ができるということである。

また、一体的なアイデンティティが共有されているかどうか第二に重要であるといえる。アイデンティティが確固たるものとして共有されていれば、言語復権のボトムアップが可能になる。

また、コミュニティがあること、あつまる場所があるかどうか第三に重要である。個々にちらばっては、言語の復権はできない。コミュニティがあり、そこで「ことばを共有する」ことができることが重要である。ただ、居場所が地域にあっても、あまりはなされなくなった言語を「あえて」使用することに心理的抵抗がはたらくこと、はなしたくてもうまくはなせないということもあるだろう。そこで、「弁論大会」のような場が必要になる。また、学習教室も必要である。図書館で読み聞かせや読書会、おはなし会をすることも必要だろう。

そのように一体のものとして言語復興運動が機能すれば、少数言語の復権も実現しやすい。ただ、ちらばって生活しているマイノリティの場合、それがむずかしい。ウェブ上でコミュニティをつくることで、つながりなおすことも必要であるといえるだろう。

書きことばをどうとらえるか

国内少数言語の多くは、書きことばの伝統をもたない。正書法が考案されていても、日常のレベルで使用されていない、定着していない場合がある。逆にいえば、書きことばの伝統をもち、多くの人々がよみかきできるような言語は、言語としてかなり安定しているといえる。書きことばが定着していれば、危機にさらされにくいといえる。

ここで、どのようなメディアを活用するのかという問いが重要になってくる。書きことばが定着していないのであれば、動画メディアやラジオを活用することで、さまざまな人にひらかれたものになる。動画に字幕をつければ、学習者、学びなおしている人にとって、ひらかれたものになる。言語復興運動にもバリアフリーの視点が必要であるといえるだろう。

歴史を記述し、つたえる

他者の言語を第一言語としているマイノリティグループの場合、そもそも自分たちの言語を使用することに意義を見いだせない人もいる。できればいいと思っても、学習したいとまで思わないという人もいる。それでいいではないかと思う人もいる。何語をはなそうと、わたしはわたしだという立場もある。人が少数言語にどのようなをとるにせよ、学習したい人には学習機会が保障される必要がある。そして、メディアなどを通じて、価値を復権していく必要もある。それだけでなく、歴史を記述し、つたえていくことも必要だろう。ものごとには、歴史的な背景がある。どのような風景であれ、「いま」のすがたになるまでに、歴史をかさねてきている。多数派は自分たちの言語を維持しているのに対して、少数言語話者はその言語に価値を見いだせず、主流言語をはなすようになっている現状にも、歴史がある。言語に

優劣をつけるような価値観は、社会的に形成されてきたものである。歴史をふりかえることで、いまの何気ない風景が、ちがって見えるようになることもある。歴史を知ることアイデンティティの確立、自己の解放につながる。

たとえば「方言札」について、現物を展示するような博物館や資料館が必要である。その体験について、語りを聞けるような場も必要である。

今年（2020年4月24日）に開館する国立アイヌ民族博物館（<https://ainu-upopoy.jp>）はどのような展示になるだろうか。文化庁の「アイヌ文化の振興」というウェブページでは、「国立アイヌ民族博物館建物及び展示の基本設計」や「国立アイヌ民族博物館パンフレット」などを公開している（<http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/ainu/>）。また、将来、国立琉球文化博物館といったような琉球弧の文化に関する博物館が建設されることはあるだろうか。あるいは、日本手話に関する公立の専門図書館が建設されることはあるだろうか。言語権が重視される社会になったとき、言語メディアはどのようになっているだろうか。

参考文献

あべ・やすし 2015 『ことばのバリアフリー』生活書院

新垣友子（あらかき・ともこ）／島袋純（しまぶくろ・じゅん） 2017 「琉球諸語復興のための言語計画一言語権をめぐる国際的動向と現状」『沖縄キリスト教大学院大学論集』13、37-46

木村護郎クリストフ（きむら・ごろう くりすとふ） 2015 「障害学的言語権論の展望と課題」『社会言語学』15号、1-18

杉本篤史（すぎもと・あつぶみ） 2019 「日本の国内法制と言語権—国際法上の言語権概念を国内法へ受容するための条件と課題」『社会言語科学』22(1)、47-60

砂野幸稔（すなの・ゆきとし） 2012 「序論 多言語主義再考」すなの編『多言語主義再考』三元社、11-48

砂野幸稔編 2012 『多言語主義再考—多言語状況の比較研究』三元社

高嶋由布子（たかしま・ゆふこ） 2020 「危機言語としての日本手話」『国立国語研究所論集』18、121-148

内閣官房アイヌ総合政策室北海道分室 2018 「北海道新時代 アイヌ語が響く公共空間を目指して—アイヌ語による車内アナウンスを実施中」『開発こうほう』663、1-3 https://hkk.or.jp/kouhou/file/no663_epoch-1.pdf

雑誌特集

『社会言語科学』1999年2巻1号「特集 日本の言語問題」

『月刊言語』2008年2月号「特集 言語権とは何か—多言語時代を生きるために」

『社会言語科学』2010年13巻1号「特集 日本社会の変容と言語問題」

『社会言語科学』2019年22巻1号「特集 日本語と日本社会をめぐる言語政策・言語計画」

学生のコメント

私も、Netflixで、音声検索で、見せていただいた動画と同じような思いをしたことがあります。洋画の名前を打つのが憂うつで音声検索を使ったのですが、私の英語のアクセントを全く聞き取ってくれず、いらだちました。アメリカ英語だけでなく、どんなアクセントでも聞き取れるようにしてほしいと思いました。しかし一方で、アメリカ英語の発音を身につけたい私にとっては利点もあります。私はよく、Siriに英語で話しかけて、会話の練習をします。なまりのある発音をしてしまうと、聞き取ってもらえないので、発音練習に役立ちます。

———

私もアレクサをよく使うのですが、困るのが同音異義語の単語の認識です。「アレクサ、〇〇の音楽流して」とあるグループの音楽を流してもらうように頼むと、アレクサは読みは同じでも字が違う別のアーティストの音楽を流します。スペルや漢字をアレクサとの会話の中で指定できる音声認識の機能がほしいと思いました。

【あべのコメント：そもそも「AI」とかいけど、ひとつの入力に反応するだけで「文脈」ができあがらないですね。「〇〇じゃなくて□□だよ。スペルはRO…」。「じゅん」はあつしの淳じゃなくて、純粹の純」みたいに、ひとつま

えの入力を補足するような機能がない。あれだけしょぼいレベルのものを人工知能とよぶのは低レベルなはなしだと感じます。】

私は文字化けはスペイン人の先生から送られてきたメールや、自分がスペイン語の新聞サイトを見ている時に起こります。／フリック入力から始めたのですが、友達にキーボードを勧められてしばらくキーボード入力を利用していました。しかしあまり慣れることが出来ず、またフリック入力にもどっています。将来のためにまたキーボードにもどそうかな…と悩み中です。／機械翻訳の精度がどんどん上がることが楽しみです。EUは大量の翻訳家を雇っていてその人たちに払われるお金の量が無駄である、と批判するEU域内住民が多く、EUに反対する人たちの理由の一つである、という話を聞いたことがあります。機械翻訳の発達はこうした批判を減らすことにもつながると思います。

【あべのコメント：就職する予定があるならキーボード入力は身につけておくべきでしょう。／機械翻訳を意識した文体も誕生していくでしょうね。】

…私が今使っているスマホのキーボードには「日本語かな」「日本語ローマ字」「English (Japan)」「Deutsch (Deutschland)」が入っているのですが、日本語かな以外のキーボードの配置はパソコンのキーボードの配置、デザインとかわからないように感じます。パソコンのキーボードは両手でうったときにうちやすいように、と作られたものだと聞きました。たいていの人はスマホの文字を片手から1本の指でうっていると思うのですが、「両手で使うこと」を前提に作られたキーボードが採用されているのはなぜなのでしょう？

【あべのコメント：開発者がまだパソコン世代だからということもあるでしょう。わたしはiPhoneSEのちいさい画面で左手の親指と右手の人さし指でQWERTYキーボードで日本語を入力しています。漢語も英語も朝鮮語も同じように入力しています。フリック入力だから指一本が定着しているだけでは。／「スマホ指」という用語があるように、手指の健康にも注意する必要があるでしょう。姿勢もしかり。ちいさくて手軽であるがゆえに、なんでもスマホでやってしまうけれども、パソコンやタブレットも活用しながら視力や骨に悪影響がでないようにしないとイケません。】

世界でさまざまなコミュニケーションツールのアプリなどが普及している中、中国ではLINEのようなSNS発信ツールを政府が規制しているという情報を聞いたことがある。世界中で普及しているアプリの代替としてWeChatなどのアプリがコミュニケーションツールが普及しているが、世界中の人との連絡のやり取りができないなどの不便さがあるのではないかと感じる。…後略…

【あべのコメント：VPN接続という方法があって、中国にもツイッター、フェイスブック、インスタグラムなどのユーザーはたくさんいます。漢語で「翻墙」（壁越え）といいます。「翻墙者」というサイトもあって、中国政府が遮断しているサイトが一覧になっています (<https://www.fanqiangzhe.com>)。／香港のデモ参加者は監視をさけるためにテレグラムというコミュニケーションツールをよく使用しているそうです。最近とくに情報統制が厳重になっているようで。LINEにしても、ユーザーは日本、台湾、タイ、インドネシアくらいのですから、LINEだけでは世界中の人とはコミュニケーションできない。】

…第二言語でフランス語を習っていた際、英語のアルファベットにはないaがあったり、その逆に英語に似たスペルもあったためiPhoneでフランス語を検索しようとするときAIが勝手に似ている英単語に直して検索してしまうことがあり、少しめんどくさい思いをしました。AIの自動変換予測機能は便利ですが、このような面で問題もあるようにも思いました。…後略…

【あべのコメント：英語の自動校正機能をオフにするといいかもです。あとは、フランス語を検索するときはグーグルフランス語版のページをお気に入りに登録しておいて活用するとか。】

…私は2月からオーストラリアに行くのですが、名前（特にファーストネーム）を正しい発音で読んでもらえるのか不安で、ニックネームを自分につけようか悩んでいます。

【あべのコメント：おたがいさまでは。日本語話者は日本語発音で世界中の人の名前をよんでますよね。】

…東山線の車内アナウンスは、あえて非ネイティブの英語を用いているそうです。私のアルバイト先の日・英・中の店内アナウンスでは、英語は非ネイティブで中国語はネイティブだそうです。英語は国際語という捉えられ方もあるため、ネイティブスピーカーの英語では、非ネイティブが理解しがたいという配慮からなのか疑問に思いました。…後略…

合成音声にも様々なライブラリが存在することで聴く対象者や用途にあわせて使い分けが可能になるのは大きな利点であると感じる。文章を打ち込むだけで自然な発音・アクセントで読み上げてくれる高品質な合成音声はその都度ナレーターを雇って録音することなしに音声案内を行うことを可能にするため、企業にとっては労力やコストの削減に大きく貢献できる。

【あべのコメント：文章を一部修正したときなど、肉声を録音したものは再度録音しなおす必要がでできますからね。あと、株式市場のニュースなど、数字がたくさんでてきて正確性が要求される場面でも合成音声の可能性があるでしょう。一方で、その「自然な発音・アクセント」というのは多数派にとっての「自然」だったりもするわけです。】

小学生の頃にヤマハからVOCALOIDが発売され、合成音声による楽曲が数多く誕生しましたが、確かに初期の歌と今の歌を聴き比べると自然さが段違いで、趣味の世界からの始まりでありつつも技術の進歩には目をみはるものがあると思います。去年の紅白では、AIを用いて美空ひばりの歌声を再現するパフォーマンスがありました。2000年代の初音ミクのしゃべりを思うと非常に自然に感じました。「より人間らしく」することの意義として、聞いている側に不自然さ（もっといえば不気味さ）を感じさせないこと以外になにがあるかな…としましたが、その言語のヴァーチャルな話者を作りあげられる、と思うと、消えてしまう言語も音声ごと残せたりするかもしれない、と思いました。

【あべのコメント：TEDのスピーチで「指紋のようにユニークな合成音声」というのがあります (https://www.ted.com/talks/rupal_patel_synthetic_voices_as_unique_as_fingerprints?language=ja)。声をだせなくなった人が合成音声で自分の声を取りもどせるという内容です。その人の声の録音サンプルがあれば「たったひとつの合成音声」ができるという。これも活用例のひとつです。／英語で検索してみたら「The Potential of Text-to-Speech Synthesis in Computer-Assisted Language Learning: A Minority Language Perspective」という論文がありました（『Recent Tools for Computer- and Mobile-Assisted Foreign Language Learning』という本の第7章）<https://www.igi-global.com/chapter/the-potential-of-text-to-speech-synthesis-in-computer-assisted-language-learning/238664>。】

…辞書に音声機能がついているものが多いが、いろんな英語の対応ができたら（英・米以外にも）より多様性が広がると思う。

【あべのコメント：学習ニーズが多様化してくると、そういった機能もでてくるでしょうね。選択肢が「英・米」しかないのは学習者の側が「英語」をせまくとらえていることの結果でもあるでしょう。】

先日のカルロス・ゴーン氏の記者会見の際、Abema TVによる放送ではAIが同時自動翻訳した日本語も表示されていたが、全く上手く翻訳できていなかった。AIが同時自動翻訳をできるようになるには、どのくらいの期間が必要なのでしょう。

【あべのコメント：2つのハードルがあります。音声認識と機械翻訳。アナウンサーが原稿を読み上げている場合は、論理的に構成された文章であり、クリアな発声で音質もいいので、音声認識されやすいし、機械翻訳もされやすい。一方、話しことばは、いいよどむことがあるし、話し手と音声認識をする端末のマイクに距離がある場合もある。プロが通訳するときには、余分なことばを省略して、意味のある文章に再構成しているわけですね。】

…LINEスタンプについて。私は三重出身なので、三重の方言をキャラクターが話しているようなイラストのスタンプを購入して使っています。「できないじゃん」という意味の「できやんやん」と打とうとすると、「できヤンヤン」などのようになって、話し言葉に近くなる打ち言葉で不便さを感じることがあります。

【あべのコメント：すべてひらがなにすればパソコンだと「F6」で一発です。カタカナなら「F7」。「F10」で半角英数。】

フリック入力について。iPadを最近買ったのですが、レポートやらを書くときにもっばらこっちを使う様になりました。慣れの問題なんですけど、キーボードだと、ブラインドタッチが出来ないので、間違えに気づかずわ〜って打ってってしまうんですね…。フリックのが確かにうつのは多分遅いんですけど、戻ってわ〜ってする時間が嫌でフリック使っています。／【漢語入力で】WZと打って文章がでるのは、OMGみたいな話ですか？WZ=文章が当たり前みたいな…。

【あべのコメント：タッチタイプできるようになるまで継続するのみです。誤字に気づかないのは自分が入力している文章を見ていないからなので（入力に必死になっている）。あと、マイクロソフトのワードのように自動校正機能があるものも活用したらいいでしょう。／「OMG」「ru」みたいなのは、そこから「Oh my gosh」「Are you」に変換するわけではないですよ。日本語入力だとえていうなら「gk」と入力したら変換候補に「学校」「銀行」などが表示されるということです。日本語入力にはない機能。漢語でも「OMG」のような用法はあって、伏せ字としてローマ字2字などで表記することがあります。】

iPhone10Rという機種を使っていますが、確かに「設定」を色々見ていくと、確かに多言語に対応していたり、音声入力や読みあげ機能があったり、様々な利用者を想定していることが分かります。それはつまり、Apple社が“言語”についてお金をかけたか、利用者に話を聞く時間を割いたりしている、ということなのでしょうか？

【あべのコメント：「ガラケー」という用語がありますよね。ガラパゴス・ケータイ。その呼称には2つのポイントがあります。日本国内だけで独自進化したという意味あいと、日本国内だけで流通しているということです。一方、現在市場で流通している多くの端末は国際的に販売されていて、戦略として多言語対応している。バリアフリーはアメリカの法律に対応しているという側面、企業イメージのためなど、いろいろあるでしょう。結局は、商品としての魅力をどうつくりだすかということです。／多言語に対応しているといっても世界中にある国内少数言語には全然対応できていない。】

学生への質問

- ・言語に関して、自分が解放されたいと感じている規範や固定観念、あるいは自分の限界など、おもいつくことがあれば、おしえてください。
- ・日本以外で、言語権に関するとりくみとして、自分が見聞きしたこと、興味があって調べていることなどあれば、おしえてください。
- ・日本の公共施設で、言語に関して魅力的なとりくみをしている例があれば、おしえてください。
- ・大学でさまざまな言語を学習するなかで、よかったこと、みえるようになったことなどがあれば、おしえてください。
- ・この授業でとりあげたことに関連するテーマをえがいた作品（映画、小説、マンガなど）があれば、おしえてください。